

日本語を母語としない子どもとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信
(JSL= Japanese as a second language)

令和3年 第7号
発行者 会長 瀬村 進
日本語指導教育研究会 事務局

○第7回研修会 (オンライン開催)

全体研修1 ビザ・入国・在留資格などについての研修

今回の研修は、まいづる行政書士事務所 代表・特定行政書士の村上由里様を講師として招き、「外国人児童生徒と在留資格について」という内容で講演していただきました。「在留資格」とは、外国人が日本に滞在し何らかの活動をするために必要な資格の総称です。その資格は、現在29種類あります。外国人児童生徒の保護者がどのような在留資格で入国したのかを知るためには、在留カードを確認することが一番の方法なのですが個人情報の観点からなかなか浸透しづらい現状があるようです。

将来、日本で仕事につく場合、「なりたい職業」に合わせた在留資格を取得していくためにも、その生徒にあわせた高校卒業後の進路を長いスパンで見据えていく必要があると気づかされました。また、「なりたい職業」が途中で変わった際にも出来るだけ柔軟に対応できる進路を選ぶ必要があるというお話もありました。

- ・初めて知った話でしたが、子どもの将来のために知っておかなければならない大事なことだと思いました。研修できてよかったです。
- ・児童の進路をいっしょに考えるうえで、在留資格の知識は欠かせないものであると思いました。
- ・将来なりたい職業に合わせた在留資格を取るためにも、中学校の早い段階で保護者や生徒に情報を伝えることは必要だと感じました。
- ・永住か帰化か、またビザの種類が将来の進路に大きく関係することがよく分かりました。早い段階で、保護者や子どもに伝える必要があると思いました。
- ・日本に暮らすという大前提では、一番大切なことなので、大変勉強になった。1回だけではなかなか理解が難しいのでこれからも勉強したい。

全体研修2 配置校・拠点校会議「評価について」

全体研修2では、小・中それぞれ配置校・拠点校に分かれて「評価」に関しての交流を行いました。小学校では「テストや通信表について担任の先生に伝えること」についてグループ交流を行い、中学校では、「各教科の評価に関する検討必要事項について」、「進路に関する情報交換」を行いました。入試についても来年度から新しいスタイルが導入され、私立・公立の傾向も少しずつですが変化が見られるようです。そのため細かくアンテナを張っておく必要があります。また、日頃から配置校の先生方は配置校で話す機会があまりないため、貴重な意見交流の場となったようです。

- ・事前に取り組みを書いてもらっていたので、具体的に話すことができた。
- ・各グループでそれぞれの柱にそった充実した話し合いができた。いろいろ疑問に思っていることを相談できたことがよかった。
- ・「評価」について他の学校の実践が聞けたり、疑問を出し合ったりできたことが良かった。
- ・他校の先生方の取り組みを聞いて、自分が担当している在籍校の担任の先生へのサポートがあまり十分ではなかったと感じた。所見の書き方など、2学期の通信表を書く際には参考にしたいと思う。
- ・評価に関して、配置校の取り組みを聞くことができ勉強になった。いろいろな考えがあるとはいえ、基本的な指標がこれからJSLで形づくられたらいいと感じる。
- ・配置と拠点では活動内容が異なることもあるため、それぞれに分かれて話し合う時間を取ってほしい。